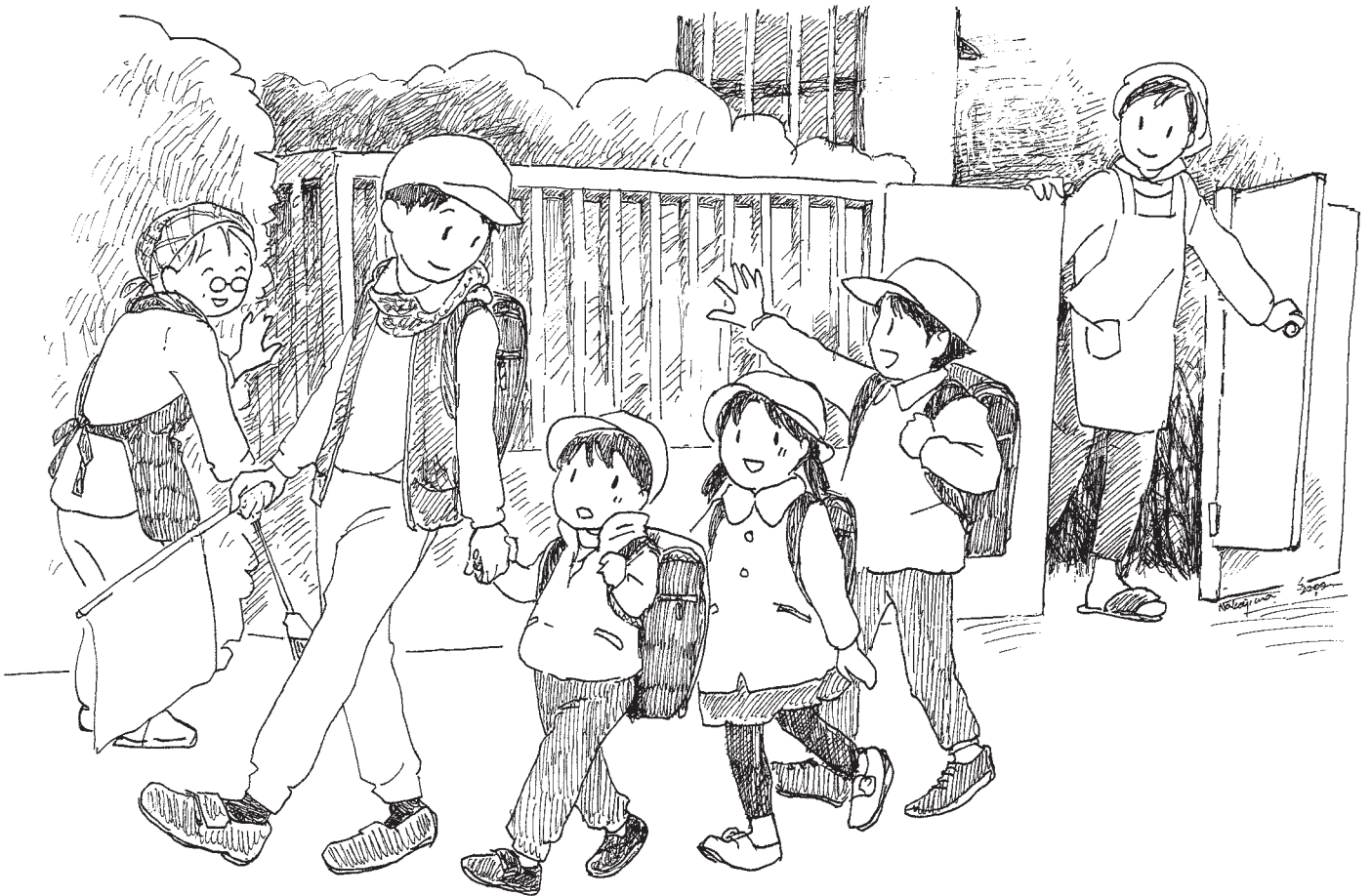


# 光の子



No.204 2022.2.28

●年間聖句 イエス・キリストは言う：私のもとに来る人を、私は決して追い出さない。  
(ヨハネによる福音書6章37節より)



「皆に見守られての初登校班」

表紙絵・中島由起子

駈けて転んで

群れ鳥を咲かせて春を待つ木立

草萌ゆる駈けて転んでまた駈けて

不揃ひと言ふも楽しき路のたう

さくらさくら

旅の昼餉は蕎麦と決め

回り過ぎの回転椅子やさへづれり

おぼろ濃し

わけても湯屋の辺りかな

妹に言ひまかされて暮れかぬる

奥名 春江

(「春野」主宰)

# 忘れられない大切な思い出

東京女子大学宗教委員長 佐野 正子

私にはとても大切にしていくプレゼントがあります。それは私が高校生であった時、八歳のM代ちゃんという女の子からもらった木でできた小さな馬のおもちゃです。M代ちゃんは生まれて間もなく父親を亡くし、母親は精神的な病いのために入院をしてしまい、幼い頃からずっと児童養護施設で暮らしていました。

私の両親が精神里親となり、夏休みや冬休みなどに私の家に泊まりに来ることになりました。M代ちゃんは私の妹と同じくらい年齢で、もう一人妹が増えたようで嬉しかったことを覚えています。

初めてM代ちゃんの住んでいる施設に遊びに行った時、M代ちゃんの持ち物がすべて入っている小さなロッカーを開けて見せてくれました。私は顔には出しませんでした。M代ちゃんの持ち物が小さなロッカーにすべて納まっ

てしまうくらい少ないことに衝撃を受けました。それに比べて私はなんて多くの物を持っているのだろうと申し訳ないような気持ちになりました。すると驚いたことにM代ちゃんはロッカーの中からこそごと小さな馬のおもちゃを取り出して「これ、あげる」と私にくれようとするので、私は「いいよ、いいよ、だいじょうぶ、ありがとう」と断ろうとしましたが、小さな腕をピンと伸ばして「これ、あげる」と何度も言うので、私は胸が熱くなつてしまいました。M代ちゃんが有り余るほどのたくさんのおもちゃの中から自分のいらぬ物をくれようとしたのではないかつたことがよく分かっていたからです。このおもちゃは私と仲良しになったしるしに、大切な数少ないおもちゃの中からプレゼントしてくれたM代ちゃんの心のこもった贈り

物でした。私が「本当にありがとう」と言っておもちゃを受け取ると、にっこり微笑んでくれた可愛い笑顔が忘れられません。それから40年以上経つうちにその頃持っていた物はほとんど無くなってしまいました。M代ちゃんからもらったおもちゃだけは手放すことができなくて、今も時々眺めてはあの頃のことを懐かしく思い出しています。いろいろな事情で親元から離れて児童養護施設というところで暮らしている子どもたちがいることをM代ちゃんとの出会いによって初めて知りました。

20代になり東大宮教会の教会学校の教師になって初めて受け持ったのが幼稚科のクラスでした。できて間もなかった光の子どもの家から、多くの子どもたちが教会学校に通ってきていました。あの頃光の子どもの家では、小学校に入る前の小さな子どもたちが小中学生よりも多くて、20名近い子どもたちが毎週幼稚科のクラスに集まりました。丸く輪になって小さな椅子に座り、歌を歌ったり絵を描いた

り工作をしたり、皆がとても楽しんでくれて、子どもたちの笑顔が最高に可愛くて、私自身子どもたちに会えることが1週間のうちで1番の楽しみになっていました。椅子取りゲームのように私の右と左の椅子に多くの子どもたちが座りたがってくれて、ほほえましくとても嬉しかったです。あの時光の子どもの家の子どもたちと出会えたことも、忘れられない大切な思い出です。今こうして光の子どもの家の理事をさせていただいていることを不思議な神さまのお導きと感じます。子どもたちが神さまの愛と恵みの光に包まれて、多くの方々から愛され支えられて、幸せな人生を歩んでいってほしいと心から祈り願わずにはいられません。



登れた！(前号P.7参照)

# 焼きドーフ

彫刻家 中島 睦雄

この度、幸運にも中野四郎作品集という写真集を手に入れることができた。

中野四郎先生（以降中野先生）は彫刻家であるから、勿論彫刻作品が大半である。しかし、100を超す作品の中に少ない数であるが、鉛筆によるデッサンの作品もある。

今回は写真集に載っている彫刻作品も1点手に入れることができた。

これは、高さが25cm、横巾が20cm程の女性が腰を屈めせせらぎに手を入れているブロンズ製の作品である。

中野先生は、明治34年（1901）に東京で生まれ、22歳で東京美術学校彫刻科木彫部に入学、23歳で特待生に選定されて学資免除となった。27歳で研究科を経て卒業。卒業制作「春陽」が学校買い上げとなった。

昭和26年（50歳）で埼玉大学教育学部美術科講師となる。

この埼玉大学で指導を受けた人たちが、埼玉県内はもとより全国的に活躍する人が多数存在する。

私は、中野先生から直接指導を受けたことはないが、先生のご人格の高さは色々な場面で感じていた。

或る年、全国県展選抜展というのがあった。

これは、各県の県展に出品した一般作品の中から選ばれた作品の展覧会である。幸いにも私の作品も2点の中の1点として選ばれた。

私の石膏で少女の首を作ったものである。石膏だから白いままで余りパツとしない。そんな作品を見た中野先生からお声をかけていただき、お宅、アトリエにご招待いただいた。

中野先生より、石膏の作品に着色して出展せよ、ということであった。

恐れ多くも先生のお手持ち

の着色材料を使わせていただき、その作業を進める中で中野先生が「ここで焼きドーフをかけて」と仰るように聞かされたのであった。私は言葉をそのまま捉えてしまい、それを想像して不思議でならなかった。

ところが「焼きドーフ」ではなく「焼き銅粉」だったのである。着色の技法として銅粉が使われるのである。

私は何とバカだったのである。豆腐を焼いて塗料にするわけはあるまい。そんなやりとりもありつつ中野先生からご指導を賜り学ばせていただいた。

なので中野先生のことを思い出すと、まずはこの事を思い出してしまおう。

この度は、その尊敬する中野先生の作品集と、それに載っている作品を手に入れることができて本当に幸せである。

## ホームページから

☆ 庭木の剪定、

伐採をしました

今まであった木がなくなつて寂しさもある一方、室内の日当たりがよくなり、空いたスペースで新しいことを始める楽しみが生まれました。仙道家前ではウッドデッキづくりが進んでいます。暖かくなつたら外で食事ができそうです。（2月5日更新）



☆ いま、野球が熱い

春の選抜高校野球もまだ、プロ野球も国際大会もオフシーズンだというのに、なぜか1月下旬から野球遊びが盛り上がりつつあります。段ボール製のベースまで登場。今日も打球（柔らかいボールです）が職員宿舎の屋根を越えていきます。（2月6日更新）

# 剛ちゃんのこと

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

自宅に帰ってみると、妻の喜美子がわなわなと震えていた。どうしたのか尋ねると、「剛ちゃんが亡くなった」と言う。私も言葉を失った。剛ちゃんの「剛」の読みかたは、本当は「たけし」というのだが、我が家ではいつの間にか、「ごうちちゃん」と呼ばれていた。

私は46年前米国に留学した際に5人の子どもたちを連れて行ったが、留学中の2年間、長男（当時小学3年生）と次男（当時小学1年生）はワシントン郊外の現地の小学校に通学させた。勢い、帰国時、日本語の会話はできるものの、読み書きは、からつきし駄目であった。当時医学部の教師をしていたので、日本語習得のための家庭教師を医学部学生の中に求めた。結果、我が家にやってきたのが、剛ちゃんだった。彼は大学の物理学科を卒業し、高校

の教師を務めていたが、思うところあって、医学部を受験、合格し、またぞろ大学生生活を送っていた。もうすでに30歳近かった。

彼が、私の子どもたちにもたけしの方をしていたかはその知らないのだが、教えてもらっていた当時の2人の子どもの話では、行儀に厳しい、こわい先生だったという。無責任な父親なのだが、彼の家庭教師がいつ終わつたのか、これもまた全く知らないのだが、彼との交流は、彼が亡くなるまで、正確に言うと、今から10年くらい前まで長く続いた。

葬儀での奥さんの挨拶を借りれば、独特の空気を身にまとった人間であったが、正しいと思ったことは、周囲の目など気にせずに、やり遂げようとする人であった。今でも鮮明に記憶していることがある。私は学長を終了したと

き、JICAシニアボランティアとしてパラグアイに渡ったが、乳がんの手術を終えたばかりの妻を日本に残したまま、1人で赴任した。2年の任期の途中で一時帰国したとき、剛ちゃんが拙宅に見えて「一人で行くのはだめだ。奥さんを連れて行きなさい。」と言うのである。連れていくつもりだったので、そのことを彼に説明したが、私の話を信用できなかったらしい。彼は数日後、100万円の小切手を信書で送ってきて、「奥さんの飛行機代に使ってくれ」という。物持ちのいい妻は、剛ちゃんが亡くなった時に、そのときの封筒を見せてくれた。

今回、剛ちゃんの話を書こうと思ったきっかけは、亡くなった彼に詫びの言葉を言いたかったこともある。

彼は、いつも庄内の季節の作物などを抱えて、頑丈な、いわゆるランクル様車我が家に来てきて、それを渡す間もなく帰っていくのだが、10年くらい前から、ぷつぷつと来なくなってしまうが、最初は気にも留めなかったが、

なぜ来なくなったのか、思いを巡らせるようになった。実は10年ほど前なのだが、頼まれて、妻には反対されたのだが、保守系の議員候補者の後援会の会長を引き受けた。頼まれると断れないのが私ではある。彼が来なくなつたのは、ちょうどそのころにあたる。左っぽい彼は、私のやり方に異を唱えたのだなと1人合点した。そのとき、そんなことどうでもいいのに、と思ったことを記憶している。

ところが、今回葬儀での奥さんとの話の中で、彼が長いこと、認知症を患っていたことを知った。剛ちゃんは、私の家に庄内の産物を抱えてやってこようとする動機を、彼の心の中で失っていたがゆえに、私の家には来るこがなかったのである。彼の頭の中から、私が、私の妻が消えていたのである。言いようもない自己嫌悪に襲われた。奥さんに使えと100万円送ってくる男が、私のやり方を非難して、そのことで私から遠ざかることなどあり得なかったのだ。それは今思うことである。自分の人間の狭さが、彼

との最後の交わりを閉じてしまっていたのだと思うと、情けなく、つらい。どうして、剛ちゃんはどうしているかなと彼のところに一度訪ねていつてやれなかったのか。

彼は、鼻筋の通った聖人のような高貴な顔で、棺に横たわっていた。

### 園内保育から

児童指導員 折原 千絵

私が光の子どもの家で働かせてもらうようになってから1年が過ぎました。園内保育を主に行なっています。この冬休みも、子ども達は毎日鬼ごっこやサッカー、ドッジボールなどをして遊んでいます。寒くて厚着をしている私を尻目に、半袖の子もちらほら……。

「競争しよ！」と誘われて一緒に走りましたが、小学校高学年の子には敵わず。更に他の子からも「俺(私)とも競争しよ！」と言われて何度も走り、バテバテです。しかし、子ども達はずっと走っています。寒さも疲れも感じないのでしょうか。羨ましい限りで

す。

以前は障害者の入所施設で働いていました。ここに来て、自由度の高さに驚きました。コロナ禍で制限はあるものの、友達の家遊びに行ったり、友達が遊びに来たり、職員の買い物について行ったり、自転車ですぐに買い物に出掛けたり、たまに外食したりテイクアウトして食べた。以前いた施設では外出には計画書が必要で、好きな時にちよつと出掛けるということが難しくだったので、そういったことが可能な環境というのはとても良いなと思いました。特に年末年始はみんな自由で過ごしていました。炬燵で寛ぎ、夜更かししてもOK！インスタント食品やお菓子がいつもよりたくさん食べられる！タブレットで動画やゲームを楽しむ子どもも多くなりました。お正月という特別な期間だけの特別な過ごし方ができるというのも、『家庭』を意識して創られた光の子どもの家だからこそなのではないかと感じました。

まだまだ未熟ではありますが、子ども達の笑顔が増える

ようお手伝いできたらなと思っっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 園内保育から

児童指導員 岩井 結菜

竹花家のダイニングで日向、千暁と話をしていると、外の雪が段々と強くなってきました。二人に声をかけると、「本当だ！真っ白！」「すごい降ってるね」「結構積もってるね」等と、とても喜んでいました。

日向が、カウンスリングから戻ってきた紅を散歩に誘い、土手まで歩いていききました。40分後に帰ってきた紅は、雪の中でSnow halation(ラブライブ!の楽曲)を踊ってきたこと等、ジュエスチャーを交えながら話してくれました。

日向が戻ってこないことを心配していると、「岩井さん！見せたいものがあるから来て！」と玄関から大きな声が聞こえました。行ってみると、顔が隠れるほどの大きな雪玉を見せてくれました。「どこで作ったの？」と聞く

と、「これ、土手で作って持って来た！」と自信満々に答えます。こんなに大きな雪玉を運んでいる日向の姿を想像すると、あまりの可愛らしさに自然と笑みがこぼれました。

「今からこれで雪だるまを作るから！」と宣言をして作り始める日向。ダイニングで待つこと10分、様子を見に行くこと、耳や鼻を真っ赤にしながら黙々と雪だるまを作っていました。さらに数分後、「雪だるま出来た!!」と日向がダイニングに走ってきました。嬉しそうな表情をしながら、雪だるまを作っている時の話を聞かせてくれました。一生懸命雪だるまを作り、どや顔で「うちにも実はこういう子どもっぽいところあるんですよ」と言いながら報告してくる姿を見ると、なんだかとても心が和みました。竹花家の玄関を見ると、可愛らしいくまの形をした雪だるまが置いてありました。

翌日、雪は溶けてしまいましたが、冬の間にもう一度雪が降ることを心待ちにしています。

## 光の子どもの家の事業計画（4） 研修委員会

臨床心理士・公認心理師 積 みどり

### 問題の所在

光の子どもの家は一般家庭のような暮らしをめざし、日々の何気ない出来事の積み重ねを大切にしています。近年まで、必要な時に都度知識や情報を得ていくという在り方で、いわゆる職場的な『研修』が非常に少ない施設でした。

しかし昨今、情報化社会の発展、価値観の多様化、社会構造の複雑化が急速に進みました。普通の暮らしの中で子どもたちを育てたいという願いに対し、「普通ってなんだろう？」、「ここで目指す暮らしは具体的にどのようなものだろう？」と問い直すことも必要になってきました。

また、職員の子どもたちに対する「思い」も大切にされてきました。が、「思い」だけでは立ちゆかないことも増えてきました。子どもたちの抱える生きにくさや傷つきを多

角的な視点で捉え、子どもたちに寄り添うためのスキルを身につけなければ、「思い」が空回りしてしまうことにも気づきました。

### 研修委員会発足

職員研修の見直しが提起され、初めは施設長や心理士が企画立案した研修を行いました。ただ、押し付けの研修の様相は否めませんでした。やはり現場が知りたいこと、困っていることを吸い上げた上で、主体的に学び、日々の取り組みに活かせるような研修計画を立てたいと考えました。そうして今年度より研修委員会を発足し、職員からのアンケートを参考に研修を計画することが始められました。

以下が今年度実施された研修です。

### \*新任研修

社会人として、光の子どもの家の職員として知っておく

べきこと、日常業務の内容、子どもの養育についての基礎知識などを学びます。

座学として伝えるべきことと、日々の働きの中で学ぶこととの整理が、まだうまくできていません。コミュニケーションを大事にしながら、課題を少しずつ修正し、わかりやすい研修を目指します。

### \*子どもの発達と

#### 自立支援についての研修

星野崇啓先生（さいたま子どもこのころクリニック）に講師をお願いしました。子ども自身がどのように発達の課題に向き合うのか、施設の暮らしや家族をどのように受け入れていくのか、障がいを抱えている子どもの自立支援をどのように考えていけば良いのか、といったことについてお話ししていただきました。

### \*CAP研修

くきCAPに、職員と子どもそれぞれワークショップを依頼しました。「安心・自信・自由」をキーワードに、人権とは何かということ、その人権を守る具体的なスキルについて学びました。

### \*園内保育についての

#### グループディスカッション

子どもたちが各々好きな遊びに興じ、身体を動かし、共に遊んだり喧嘩をしたりする時間は、とても大切です。

園庭や食堂で遊ぶ子どもたちを見守る日常業務を「園内保育」と呼んでいます。子どもの発想やリーダーシップ、人間関係の学びを促し、適度に介入することで安心安全を守ることが求められる業務について、定期的に話し合い、連携力を高めました。

### \*労務に関する研修

働き方改革という言葉を目にする機会も多くなりました。光の子どもの家でも職員のワークライフバランスを考え、より良い状態で働けるよう、休憩時間や有給休暇の確保に努めています。職員全体の理解を進めるため、社労士の遠藤成弥先生にお話をうかがいました。

### \*刺又・AED研修

緊急事態に備えて刺又とAEDを配備しました。実際に使用できるように、実践的な研修を行いました。

## 導かれて

児童指導員 三井 正俊

4年前、40歳の誕生日に「残りの人生を具体的にどう生きるか」もう一度自分の人生と向き合い祈る時間が欲しいと思えました。12年勤めた会社を辞め、長年の夢だった世界一周の旅をしながらじっくり考えることにしました。「あなたの天幕の場所を広くし、あなたのすまいの幕を張りひろげ、惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの杭を強固にせよ」（イザヤ書54章2節）

6月、この聖句を書いたカードをポケットに入れ、不安や恐れが来るたびに読み上げ、一步一步前進しました。シンガポールから西回りでアジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、南米、北米、約1年かけて37カ国を回り、本当に祝された旅となりました。たくさんさんの国の文化や宗教に触れ、見たかった世界遺産の教会や遺跡、大自然の絶景の

数々に限りない神様の愛を実感しました。

旅の間は孤独を感じることもあり、よく祈りました。インターネット上の礼拝メッセージもたくさん聞いていました。ある日の夜、「ひざまずいて祈る」ことが語られていました。私は生まれて初めて心の底から神様を求め、その場でひざまずき祈りました。「神様、私をあなたのご用のためにお使いください。私はいかに何をすればいいですか、具体的に示してください。もう逃げません……」

すると祈りの中である光景が見えてきたのです。たくさんの子どもたちと遊んだり、笑いながら食事をしている自分の姿でした。祈りの後、私は何かに取りつかれたかのようになり、日本の児童施設について夢中になって調べていたのです。本当に不思議な体験でした。

無事に世界一周の旅を終えたあと、すぐに児童養護施設を見て回りました。最初に見学させて頂いたのが光の子どもの家でした。

それから、児童福祉の父と言われ、熱心なクリスチャンでもあった石井十次ゆかりの地、岡山県に行きました。図書館に入り、石井十次の本を一冊読み、「早く現場での働きをしたい」という強い思いが起こされたのです。図書館の窓から外の景色を眺めながら導きを待っていたその時、一本の電話が入りました。光の子どもの家から「うちで働いてみないか」という連絡でした。

こんなにタイミングよく事が起るものだろうか、神様の導きを感じずにはいられません。と即答しようと思いましたが、一度祈ってから決めたいと伝え、一旦、電話を切りました。

近くにあった岡山孤児院の子どもたちが眠るお墓へ向かい、そこでひざまずき祈りました。祈り終え墓石に近づいて見ると、墓石に刻まれた言

葉が目に見えび込んできたので。こう書かれていました。

「この子等の願い

天まで届け」

私は胸がえぐられるようで、いてもたってもいられず、すぐに光の子どもの家に電話をして「よろしくお願います」と伝えていました。

私が光の子どもの家に導かれて2年が経ちました。世界一周の旅という一番の夢を叶えても満たされることのなかった私の心は今、神様の平安で満たされています。

「あなたがたがわたしを選んだのではない、わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいづまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。」（ヨハネによる福音書15章16節）

これからどんな実をむすんでいくのか楽しみです。たくさんさんの実をむすんでいきたい、子どもたちの願いと共に……。

## 仙道家から

主任保育士 岩崎 まり子

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。皆様、体調はいかがですか。前年度に引き続きのコロナ禍の受験は、本人は勿論、周囲の方々の緊張は計り知れません。どうぞ、良い進路が備えられますように。

昨年末、卒園生の丘実から連絡がありました。

「引越したいと思って。緊急連絡先になってもらえないかなと思って。親は……、アレじゃん？ 丘実、施設にいたこととか保証会社に全部話したから。そしたら施設の職員でもいいって言われたから。」

との話でした。

「いいよ。」と返事しつつ、卒園生たちの卒園後の生活の苦労に思いを馳せずにはいられませんでした。しかも、私にも

「お金のことは保証会社がやってくれるから。迷惑かけないから。」と、言わずにはいられない遠慮

というか、心苦しきもあるわけです。正直、私自身も個人として、また組織として出来ることと出来ないことがあるので、相談しながらのやりとりになります。それでも、門前払いのようなことはしたくないということ、いつも思っています。

制度的に改良されているものはありますし、それはとても重要なことです。

一方で、制度があってもなくとも、私たちの理念というのか想いは変わらないように気をつけていかなければ、と思います。出会った子ども一人ひとりを忘れず、心に掛けていきたいと願っています。

## 園内保育から

保育士 橋本 寛司

正宗が小学校に入学して以来、自分の仕事が休みの日は、必ず正宗の迎えに行くことにしている。

ある日の帰り道、正宗が「モツチ（＝橋本）、俺、普通になりたいんだ」と言った。「そうかあ普通になりたいの

かあ」。今年度の途中から、正宗は校内通級教室で指導を受けるようになった。週に何時間か自分の学級を離れて、正宗の特性に合わせた課題に取り組んでいる。

正宗自身の意思も確認したうえで始めたことだが、いまの正宗は通級に行くことについて「『普通』ではない」と違和感を抱いているようだ、と他の職員から聞いていた。

「普通になるのは一見難しそうに見えて難しいんだぜ！」

「ズコツ、なにそれ!？」

「ごめんごめん、ふざけた。」

正宗が思う普通ってなんだと思う?」

「わかんないけど、普通になりたいんだ」

『普通』その言葉に自分も頭を抱えた。普通普通と簡単に言えるが、じっくりと考えてみると上手く答えが出ない。

「普通っていうのはな、人によつて違うんだよ」

「そうなの?」

「橋本さんにとつての普通ってなんだと思う?」

「わかんない」

「橋本さんの普通はな、おかし

いや違うって言われたことを直すこともそうだけど、好きな物は好き、嫌いな物は嫌いってハッキリ言うことだと思っただよ」

正宗は首を傾げた。

「橋本さんはガンダムや仮面ライダーが好きで、グリーンピースが嫌いだ」

「なるほど」

「前に正宗が言ってただろ? マインクラフトが好きでキノコやいじめが嫌いだって」

「うん」

「それが普通なんだよ。マインクラフトが好きでキノコやいじめが嫌い、それで良いんだよ。それが正宗の普通なんだから」

「そうかあ」

「もし正宗が『これは普通じゃない、間違っている。直さなきゃ』と思つてやったことで謝らないといけない時は、その時は橋本さんが幾らでも頭を下げてやるからおもいきりやりな」

「うん、わかった」

返事の口調的あまり理解していないような感じであった。「自分の考えの押し付けかもしれない」とも思つた



### 登校中のしりとりで



彩の歯が抜けた。下の歯だから屋根の上に投げよう、と庭に連れて行ったら、前に向かって思い切り投げたそう。乳歯がどこに転がったか分からないが、生え替わりの永久歯はきつと元気だろう。彩は食事に時間がかかる。食べるよりしゃべる時間が長いかもしれない。朝食を食べきらずに幼稚園へ行く日が続いた。見かねた田口保育士が

### 竹花家から

児童指導員 佐藤 義岳

が、この考えは自分が幼い時に父から教わったことだ。いつの日か自分の言った考えを理解し、正宗自身の『普通』への道標になればと願っている。

お迎えに行くと先生方や他の子どもの陰に隠れて走り出すので、二人して柱のまわりで追いかけてこしてから帰った。園庭のフェンスを掴みながら縁石で蟹歩き。縁石が終わってからも蟹歩きを続け、何もないと転ぶ。右膝をすりむいて血が出る。涙を出さずに「いー！ いー！」と泣いたふりの大声を出し続けながら歩く。家に着いて絆

創膏をはれば元気。調理の梅田がおやつにシュークリームを買ってきてくれた。食べ盛りの日向にコロツケを揚げる。ついでに彩と千暁も食べる。さらにオレンジゼリーも食べたいと主張する彩。やめておきなさいと言うと、「さとうさんのバカ！」とすごい顔で言う。夕食はお好み焼き。彩の分だけ、生地に紅シヨウガを入れずに作ってもらった。「さやの嫌いなネギが入ってる」言うので、「彩の好きなマヨネーズがかかっているから大丈夫」と答えたら、1枚食べきった。食後、YouTubeで10年ほど前のアニメの曲をかけて踊る。もともと紅が好きで毎日声優のライブ動画を見ていたが、彩も気に入ったようだ。紅が高校を卒業して引越しても踊り続けるだろうか？

19時半、おやすみなさい。「えほんおきに来た」、「みずのみたい」、「トイレいったからてえあらう」。今度こそほんとうに、おやすみなさい、またあした。

**日誌抄**  
2021年11月5日  
2022年1月

### 【1月末現在の在籍児童数】

幼児 3名 小学生13名  
中学生6名 高校生10名  
その他1名 計 33名

### 【11月】

- 2日 社労士による職員研修
  - 4日 幼稚園に通う彩、体操クラブに入会
  - 14日 埼玉県民の日だがもともと日曜で休日が増えず残念
  - 15日 11月生まれの誕生会
  - 19日 パントリー
  - 22日 9、10月に撮ったポーターレイトが届く
  - 26日 夕礼拝 木田浩靖牧師 (東埼玉バプテスト教会)
  - 28日 第1アドベント礼拝 聖誕劇配役発表 高校生蒼士引越バイト開始
- ### 【12月】
- 1日 園庭ツリー点灯
  - 5日 第2アドベント礼拝
  - 12日 第3アドベント礼拝 (佐野正子氏)
  - 13日 12月生まれの誕生会
  - 19日 第4アドベント礼拝

24日 クリスマスイヴ、サン  
タクロース来訪  
25日 クリスマス祝会  
28日 餅つき  
28日 聖誕劇の上映

東京家政大学、東京未来大学  
福祉保育専門学校、昭和女子  
大学

【1月】

1日 元旦礼拝・祝会  
卒園生の集い  
8日〜10日 くきCAP小学  
生ワーク  
9日 市の成人式に合わせ新  
成人の卒園生来訪  
15日 新吉屋指導員がD1だ  
じゃれグランプリ加須オーブ  
ンに出場、子どもたちも応援  
へ  
24日 千暁がボクシングジム  
に入会

【委員会の主な動き】

運営 コロナ対策、冬季行事、  
入所、人事、採用面接  
危機管理 コロナ対策  
学習支援 冬休みの宿題支援  
環境整備 園庭樹木の剪定・  
伐根、ゴミ捨て場修繕  
食生活 冬季行事等献立  
情報・通信 子どものネット  
使用ルールづくり完了

【実習生受入】

【寄贈者各位】（敬称略）

浅倉桂子 池端寛 大塚詢二  
大塚東一 大橋清栄 小原ゆ  
う子 檀渕歌世 木村郁子  
木村ノボル 木村ユウサク  
工藤幸子 小池みどり 木暮  
伸二 小城忠秋 齋藤香織  
斉藤克枝 清水亨桐 鈴木史  
乃 仙道喜美子 高橋幸子  
常松洋介 豊国道江 並木典  
子 丹羽吉康 長谷川智子  
長谷川雅之 浜田文昭 古川  
景子 松岡啓貴 宮節子 向  
井進 矢島均 山下勝雄 山  
田智 山田裕子 山本英美子  
山本隆久 湯澤眞彦 和田宏  
之 渡邊充  
(株)イトアンドフーズ 岩槻  
教会 (株)市流 鴨川会 (有)カ  
ワサキ カワサキ製茶プラン  
ト ゴールドバック(株)あずみ  
野工場 (株)ゴルフドゥ 埼玉  
県書店商業組合 (二社)埼玉  
県茶業協会 境キリスト教会  
狭山シャローム教会 サンヨ  
ー缶詰(株) 静岡ジェイフーズ  
(株) 女子学院中学校高等学校  
宗教委員会 すくすく広場

【ボランティア各位】（敬称略）

セカンドハーベストジャパン  
全国シヤンメリー協同組合  
全ヤオコー労働組合 (株)チュ  
チュアンナ1%クラブ (株)ドミ  
ノ・ピザ ながはる(株) (株)な  
とり 日東ベスト(株) 日本鏡  
餅組合 (公社)日本缶詰びん  
詰レトルト食品協会 (財)日本  
出版クラブ ネット東埼玉  
梅林堂 東埼玉バプテテスト教  
会 (株)ファーストリテイリン  
グ フードパントリー (株)フ  
ジッコ関東工場 細間郵便局  
長金子智幸 ほつともつと  
ホリカフーズ(株) (公財)毎日  
新聞東京社会事業団 (株)モス  
(株)ヤクルト (株)由比缶詰所  
吉本興業(株)  
他多数の皆様

【ボランティア各位】（敬称略）

〈華道〉岡本有代 〈手芸〉山田  
智 山田裕子 〈学習〉常松  
洋介 向井進 鶴見もえ 横  
山零樹 〈保育〉荒巻潤子  
栗原昭子 〈行事〉聖学院高  
校教師1名生徒3名  
他多数の皆様  
※近藤みちる「共育てカンガ  
ルー日誌」は休載です



【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277  
【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp  
【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】ゆうちょ銀行 00130-1-128022  
【印刷】(株)エル・アートデザイン